

尼崎市域社会・労働運動機関紙概要

- 1: 文書群番号 060055
- 2: 文書群名 尼崎市域社会・労働運動機関紙
- 3: 出所 -
- 4: 家業・役職等 -
- 5: 地名 杭瀬二ノ坪、杭瀬大崩、神田北通7丁目、西高洲町、鶴町5番地、鶴町8番地、東向島西之町1
- 6: 行政区分
1. 尼崎市杭瀬
2. 尼崎市神田北通7丁目
3. 尼崎市西高洲町
4. 尼崎市鶴町
5. 尼崎市東向島西之町
- 7: 歴史
朝鮮戦争後の鉄鋼業界では大企業優先の設備更新（第一次鉄鋼合理化）が行なわれ、尼崎の鉄鋼各社は大量解雇を含む合理化案を相次いで打ち出した。これに対して労働組合による反合理化闘争が高揚し、大同鋼板争議（第1次昭和27年、第2次同28年）、日亜製鋼争議（同29年）などが闘われた。中でも尼崎製鋼所争議（同29年）は地域ぐるみ闘争に発展して戦後労働運動史の画期となった。
当時の尼崎では左派労組として尼崎地区全労働組合協議会（全労協）があり、その主力は尼鋼・大同・日亜など鉄鋼労組であった。昭和27年、尼三社労組が鉄鋼労連に加入し、全労協を母体として日本労働組合総評議会尼崎地方評議会（尼地評）が発足、全労協は解散した。尼地評には市教職員組合等が加盟して組織が拡大し、平和経済国民会議、生活防衛大会、労商懇談会や鉄鋼業界合理化反対闘争に取り組み、尼崎労働運動の中核をなした。また尼鋼争議では労商提携が実現したが、昭和29年秋、尼崎商業団体連合会はこれらの商業者を組織化し、悪税反対運動を展開する。
- 8: 伝来 伝来は不明。平成14年（2002）5月に整理・目録作成を完了。
- 9: 史料入手先
- 10: 点数 24点（目録件数24件）
- 11: 年代 昭和29年（1954）～昭和31年（1956）
- 12: 構造と内容
本文書群は、昭和30年（1955）前後の尼崎市域における社会・労働運動等の機関紙及びビラ・チラシから成る。もっとも点数が多いのは大谷重工尼崎工場労働組合教宣部編集発行の『熱汗』である。この他住友鋼管、日亜製鋼、尼崎製鉄など主な鉄鋼メーカー労組や、鉄鋼労連尼崎地区共闘委員会、全駐留軍労組、日雇労組の機関紙が含まれている。内容としては第3次大同鋼板争議への支援呼びかけ、越年資金獲得要求、格差撤廃要求の他、平和運動への取り組みも見られる。この他、尼崎健康を守る会の機関紙や、教育評論社発行の『教育評論』、「労商助け合い運動」を呼びかけるビラなど、地域の多様な社会運動を知る手がかりとなる史料も含まれている。
- 13: 関連史料 尼鋼不当解雇反対同盟関係史料、尼崎製鋼所争議関係史料
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 島田克彦